

保健体育科学習指導案

学 級： 2年1組 38人
場 所： 体 育 館
指 導 者： 教諭 吉村 智浩
教諭 小田 大貴

1 単元名 器械運動 「跳び箱運動」

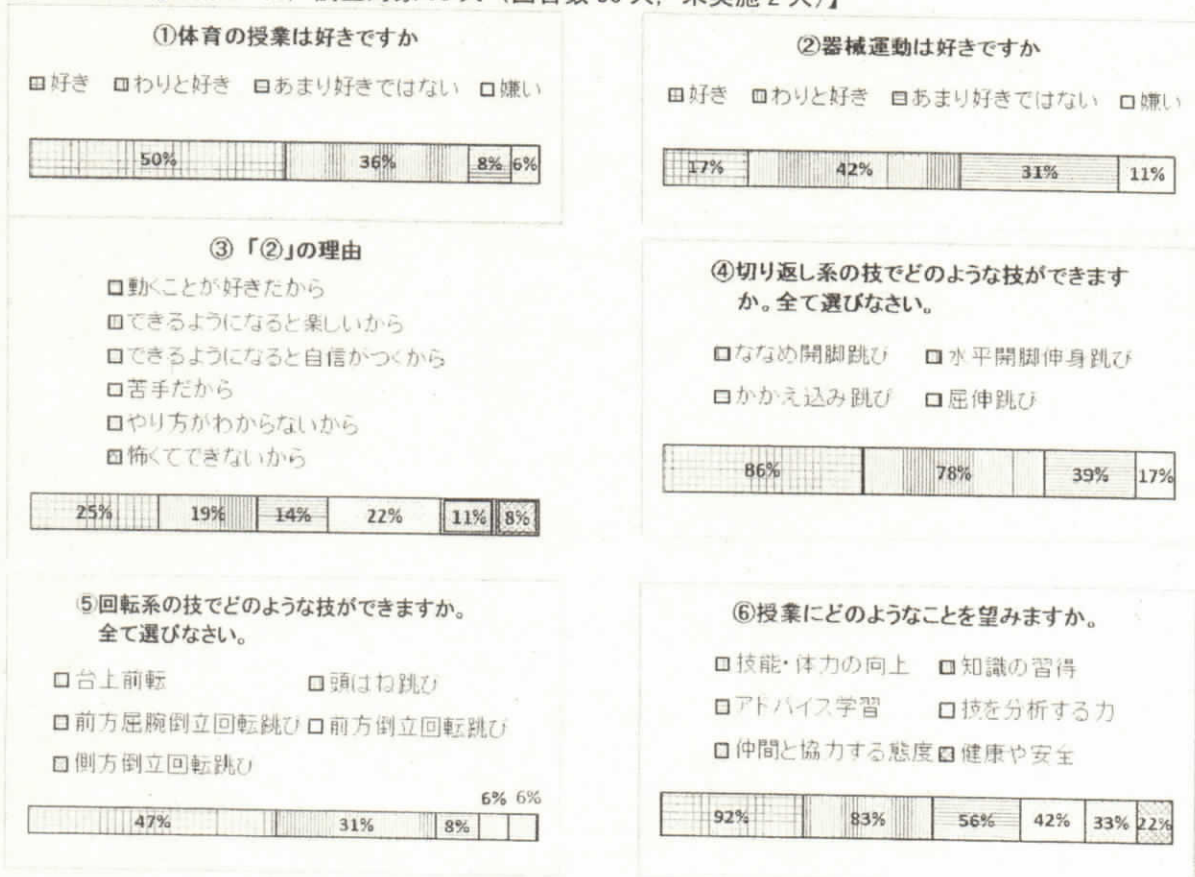
2 単元について

(1) 教材観

- ア 器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動で構成され、器械の特性に応じて多くの技があり、これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことができる運動である。
- イ 条件を変えた技や発展技などの難易度の高い技に挑戦したり、学習した基本となる技の出来映えを高めたりする達成型の運動である。
- ウ 自己の能力に適した課題に挑み、その課題を達成することで、器械運動の楽しさや喜びを味わうことができる運動である。
- エ 跳躍、回転、支持などの日常で経験できない多彩な運動を行うことによって、柔軟性・瞬発力・敏捷性・巧み性・筋力を養うことができる運動である。
- オ 補助したり相互評価をしたりすることで、協力する態度やよい演技を認めようとする態度を養い、安全に対する認識などを高めることができるとともに、物事に挑戦する勇気、決断力などを養うことができる運動である。

(2) 生徒観

ア 実態調査【8月21日、調査対象38人（回答数36人、未実施2人）】



イ 考察

質問①より、「体育の授業は好き、わりと好き」という生徒が86%おり、体育学習を好意的に捉えている生徒がほとんどである。

質問②より、「器械運動が好き、わりと好き」という生徒が59%おり、約半数の生徒が跳び箱運動に対し好意的であり、生徒たちは、これまでの学習を想起し、新たな技への意欲を膨らませて、積極的に取り組むと思われる。しかし、一方では、「跳び箱運動があまり好きではない、嫌い」という生徒が42%いることや、質問③の理由として、「怖くてできない」という安全面への不安がある生徒もいることから、教具や練習方法を工夫し恐怖心を取り除いたり、グループで確実に補助を行うなど約束事を徹底したりして、安全面に配慮した活動ができるようにしたい。

質問④⑤の習得状況を確認する質問より、基本的な技である「かかえ込み跳び」と「台上前転」ができる生徒は5割を満たしていないため、多くの生徒が初歩的な段階でつまづいていることが予想される。このことから、生徒個々の具体的な課題を明確にして、段階的に課題を解決させ、少しずつできた喜びや達成感を味わわせていきたい。

質問6より、生徒が授業に望むことの上に「技能・体力の向上」、「知識の習得」、「アドバイス学習」、「技を分析する力」などが挙げられ、効果的に技能を習得させるために、グループでのアドバイス学習を取り入れ、仲間と協力しながら課題解決を図っていく楽しさも味わわせたい。そのために、アドバイス学習のポイントを設定し、撮影した動画や写真、学習資料のイラストなどを活用させながら、言葉や動きなどでアドバイス学習を意図的に促していきたい。さらに、「論理的思考モデル」を基に話し合い活動ができるように話し合いタイムを設定し、誰とでも伝え合うことができるようにしたい。

これまでの課題解決学習では、資料を活用したり、自分たちで場を工夫したりする経験を積んでいるが、課題解決に適した練習方法を取り入れたり、場を工夫したりすることが不十分な生徒もいる。また、技の出来映えを確かめる際に、細かい技能の分析ができず、適切な課題をもてない生徒もいる。そこで、積極的にICT機器を活用し、自己の動きをモニタリングできることによって、改善しなければならない所や上手くいっている所などを理解しやすくしたい。

(3) 指導観

生徒が自己の技能・体力の程度に適した技に取り組み、技が安定してできるようにしたり、練習の仕方を工夫してできそうな新しい技に挑戦できるようにしたりして、達成の喜びを味わわせていきたい。自分の身体を自由に操り、自分の思うような跳び方ができるようになるためには、技のイメージやポイントをしっかりと押さえ、練習の仕方を工夫しながら技の向上を図っていくことが重要である。また、自己の能力に適した課題を設定し、課題解決の方法を考えるにあたっては、自分だけでなく、友達に技を見てもらったり、アドバイスしてもらったりしながら学習を進めていくようにしたい。苦手意識、恐怖心や嫌悪感をもっている生徒への安全面や不安を取り除く場の設定なども配慮していきたい。

まず、自己の能力に適した課題を設定するために、自分の技の出来映えを友達に見てもらったり、ICT機器を利用して、モデル映像や友達の動きと比べたりして、課題を発見し、課題解決のためのポイントを探せるようにしたい。なお、技については、切り返し系と回転系の両方を経験させたい。自己の能力に適した技が決められない生徒には、積極的に関わりアドバイスしていきたい。

次に課題解決に向けた練習では、自己の能力に適した技を習得するための技能をスモールステップに分け、技の出来映えを確認するときも、技能ポイント表を利用し、自己評価や相互評価しながら、自分の課題を修正していけるようにしたい。

3 単元の指導目標

- 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うことができる。 【技能】
- 跳び箱運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとすることや分担した役割を果たそうとすること、健康・安全に気を配り、仲間の学習を援助することができる。 【態度】
- 器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解することができる。 【知識・理解】
- 課題に応じた運動の取組方法を工夫することができる。 【思考・判断】

4 単元の指導計画

(1) 評価規準

ア 運動への関心・意欲・態度	イ 運動についての思考・判断	ウ 運動の技能	エ 運動についての知識・理解
① 健康・安全に気を配り、跳び箱運動の学習に積極的に取り組もうとしている。 ② 分担した役割を果たそうとしている。 ③ 仲間の学習を援助しようとしている。 ④ よい演技を認めようとしている。	① 仲間と学習する場面で、学習した安全上の留意点を当てはめている。 ② 学習する技の合理的な動き方のポイントを見付けている。 ③ 課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選んでいる。 ④ 仲間のよい動きなどを指摘したり助言したりしている。	① 基本的な技を滑らかに行うことができる。 ② 条件をかけた技を行うことができる。 ③ 発展的な技を行うことができる。 ④ 自己の能力に適した技を滑らかに行うことができる。	① 跳び箱運動の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 ② 技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ③ 跳び箱運動に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。

(2) 指導と評価の計画

時間	指導内容	評価規準
1	【目標1】 跳び箱運動の特性や成り立ち、学習のねらい、学習の進め方を理解しよう。 ○ 器械運動の特性や学習目標、学習の流れを理解させる。 ○ アドバイス学習と話し合いタイムの学び方を確認させる。 ○ スキルテストに取り組ませ、今もっている力を把握させる。 ○ スムーズに主運動へつなげるためのドリルタイム（類似の運動）や基本的な技を身に付けるためのグループ練習の学び方について理解させる。	アー① エー①
2	【目標2】 繰り返し系の技の出来映えを高めよう。 ○ ドリルタイムを積極的に行わせる。 ○ アドバイス学習や話し合いタイムを積極的に行わせる。	イー① ウー① エー②
3	○ 基本的な技を滑らかに行わせる。 ○ 条件をかけた技を行わせる。 ○ 発展的な技を行わせる。	イー② ウー② エー③
4	○ 自己の技能・体力の程度に適した技を滑らかに行わせる。	イー③ ウー③
5		アー② ウー④
6	【目標3】 回転系の技の出来映えを高めよう。 ○ ドリルタイムを積極的に行わせる。 ○ アドバイス学習や話し合いタイムを積極的に行わせる。	イー② ウー① エー②
7	○ 基本的な技を滑らかに行わせる。 ○ 条件をかけた技を行わせる。 ○ 発展的な技を行わせる。	イー③ ウー② エー③
8 (本時)	○ 自己の技能・体力の程度に適した技を滑らかに行わせる。	イー④ ウー③
9		アー③ ウー④
10	【目標4】 練習の成果を発表したり、仲間のよい動きを見付けたりしよう。	アー④ ウー④

	<input type="radio"/> 練習の成果を発表し、自己評価させる。 <input type="radio"/> 仲間の演技のよい動き方を見付け相互評価させる。	
--	---	--

5 本時の実際 (8/10)

(1) 単元名 器械運動「跳び箱運動」

(2) 学習目標

- 回転系の発展技を行うことができる。
- 仲間のよい動きなどを指摘したり助言したりすることができる。

(3) 「判断基準」の設定

学習課題： 回転系の発展技はどうすればできるようになるだろう。

評価規準	[運動についての思考・判断] <input type="radio"/> 仲間のよい動きなどを指摘したり助言したりすることができる。
評価の場面	<input type="radio"/> 展開時におけるアドバイス学習や話し合いタイムの場面
評価の対象	<input type="radio"/> アドバイス学習や話し合いタイムにおける発言内容 <input type="radio"/> 学習カードへの記述内容
判断の要素	ア 技の合理的な動き方のポイントの理解 イ ICTなどを活用し、仲間の学習を援助するための役割分担
判断基準B	ア 技の合理的な動き方のポイントを見付けている。 イ 仲間と自分の動きを観察し、それぞれの動きとその違いに気付いて指摘ができる。 【予想される生徒の表現例】 <input type="radio"/> 前方屈腕倒立回転跳びの回転するところで、私は少し膝が曲がって回転が小さい。 友達は、着手中に膝を伸びているので回転が大きい。
判断基準A	(判断基準Bに加えて) <input type="radio"/> 動きを成功させるためのポイント、失敗する場合の課題に具体的に気付いて指摘ができる。 <input type="radio"/> その他、B状況以上にあると認められるもの。

(4) 研究の取組

ア 「見通し」・「振り返り」の手立ての工夫

(7) 課題解決に向けた「見通し」と「振り返り」のつながりのある場の設定

導入場面で、前時の終末で記入させた学習カードを使って自己の課題を確認させたり、実際に技能(技)を試行させたりして、本時のゴールイメージを意識した学習課題を設定させる。終末場面にゴールイメージとどのような違いがあったかの学習の成果と学習活動の振り返りの場を設定する。

(4) 自覚・方向付けを促す学習カードの活用

自己評価や他者評価の内容を焦点化し、簡潔に振り返らせ、自己の変容に気付かせるように記入させる。

イ 積極的に交流・探究させる手立ての工夫

(7) 学び合いを重視した話し合いの時間設定と論理的思考モデルの活用

撮影した動画や写真、学習資料のイラストなどを活用させながら、言葉や動きを通して伝え合うことができるように話し合いタイムを設定する。自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断できるように、論理的思考モデルを基にアドバイス学習できる場を設定する。

(4) ICT機器を活用した交流・探究を促す場の設定

自己の動きをモニタリングしたり、他者の動きと比較したりすることで、友達同士でのかかわりがもてるような場を設定する。

(5) 展開

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	研究の取組
導入	15分	一斉	1 学習の準備や安全点検をする。 整列・あいさつ・健康観察をする。	<ul style="list-style-type: none"> 器具や練習場所の安全確認をさせる。 出欠・健康状態の把握，見学者へ指示をする。 呼吸をさせながら，積極的にこなせる。 	<p>ア一(7)(1)</p> <p>学習カードを使って，前時とのつながりを確認し，本時のゴールイメージをもたせる。</p> <p>イ一(7)</p> <p>学習カード，学習資料，ICT機器を活用させ，根拠を基に考察させる。</p>
		グループ	2 準備運動をする。	<ul style="list-style-type: none"> 類似の運動が主運動につながることを意識させる。 	
		一斉	4 学習課題・学習の流れを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 回転系の発展技はどうすればできるようになるだろう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題・学習の流れを理解させる。 	
		グループ	5 話し合いタイムを行う。 <ul style="list-style-type: none"> 前時の自己の課題を確認し，本時のゴールイメージをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの自己の課題を確認し，ゴールイメージをもたせる。 	
		グループ	3 ドリルタイム（類似の運動）をする。 (腕立てジャンプ，うさぎ跳び，馬跳び，補助倒立，踏み越し跳び)	<ul style="list-style-type: none"> 類似の運動が主運動につながることを意識させる。 	
展開	15分	グループ	6 グループごとに練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> 自己の課題に応じて技の習得に適した練習方法を選択し，繰り返し練習する。 自分の演技で見てほしいポイントを伝えて演技を行う。 教師や仲間に見せ，アドバイスをもらう。 グループ練習の映像を確認し，課題を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用して撮影させる。 お互いに補助をするなど，協力して，行っているか確認させる。 学習課題や自己の課題を意識させる。 課題に応じた練習方法を選択させたり，工夫させたりする。 仲間の動きを見て，適切で具体的な助言や補助させる。 撮影した映像やモデル映像，学習資料を活用させ，現状を把握し，課題を見付けさせる。 撮影した映像やモデル映像を見て，論理的思考モデルを活用し，交流・探究しているか確認させる。 	<p>イ一(7)</p> <p>学習資料やICT機器を活用させ，論理的思考モデルを基にアドバイス学習で交流・探究させる。</p> <p>イ一(1)</p> <p>ICT機器を活用し，自己の動きをモニタリングしたり，他者の動きと比較したりして，交流・探究させる。</p>
	10分	グループ	7 チャレンジタイムを行う。 <ul style="list-style-type: none"> 練習した技を発表し，お互いに評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> お互いに評価させる。 ICT機器を使い，モニタリングさせる。 	<p>ア一(1)</p> <p>他者評価で簡潔に振り返らせる。</p>
終末	10分	一斉	8 学習の評価・反省をする。 (生徒の表現例) 前方屈腕倒立回転跳びの回転するところで，私は少し膝が曲がって回転が小さい。友達も，着手中に膝を伸びているので回転が大きい。 (学習のまとめ) 身体各部位の位置・タイミング・スピードを関連させて動かすことが大事である。	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードに「成果の確認」と「自己の活動の振り返り」を記入させる。 	<p>ア一(7)</p> <p>ゴールイメージと違いがあったか学習の成果と学習活動の振り返りの場を設定する。</p> <p>ア一(1)</p> <p>学習カードの自己評価で振り返らせ，自己の変容に気付かせる。</p> <p>ア一(7)</p> <p>次時の課題を確認し，見直しをもたせる。</p>
		一斉	9 次時の学習内容・学習課題を確認する。 10 整理運動をする。 11 健康観察，あいさつ，後片付けをする。	<ul style="list-style-type: none"> 次時の課題を確認させ見直しをもたせる。 体調に変化がないか意識させる。 健康状態を把握する。 後片付けを指示し，確認する。 	